

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
<p>【教育目標】 たくましく伸びる子の育成「考える子・やさしい子・明るく元気な子」</p> <p>【指導の重点】 ①基礎学力・表現力の向上 ②主体的・創造的に取り組む力や態度の育成 ③基本的な生活習慣の確立 ④認め合い支え合う仲間づくり ⑤健康・体力の増進</p>	<p>□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【A】 年度末【 】</p> <p>□授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【A】 年度末【 】</p> <p>□言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【B】 年度末【 】</p> <p>□学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【B】 年度末【 】</p> <p>□授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【B】 年度末【 】</p> <p>□家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【C】 年度末【 】</p>

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」  
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」  
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 【全国】 ○国語・算数とも、A問題(主として知識)より、B問題(主として活用)の正答率の方が、県平均に近い。 ○国語Bの「話し合いの質問の意図を捉える」問題は、県平均よりかなり高い。(本校96.4% 県82.3%) ○算数Aの「円周率を求める式」の問題は、県平均よりかなり高い。(本校64.3% 県42.6%) ●国語AB・算数ABの正答率は、県平均より低い。 ●国語Aの「文の中で漢字を使う」ことに課題がある。(本校32.1% 県51.6%) ●算数Aの「除法で表すことができる2つの数量の関係を理解する」ことに課題がある。(本校28.6% 県58.0%)</p> <p>【県】 ○5年国語の正答率は、県平均並みである。 ●3・4年国語の正答率は、県平均より低い。 ●3・4・5年算数の正答率は、県平均より低い。 ●国語では、条件に合わせて書くことに課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 ○学校の授業以外に、読書を1時間以上している割合は、県平均よりも高い。 ○テレビゲームや携帯電話・スマートフォンでの通話やメール時間(2時間以上)の割合は、県平均よりも低い。 ○「近所の人に会ったときは、あいさつをしていた」という児童の割合が高い。(県) ○「めあて・話し合い活動・発表・振り返り」といった授業スタイルを行っているかを問う項目に肯定的な児童が昨年度より増えた。(県)</p> <p>●テレビ・ビデオ・DVDの視聴時間(2時間以上)の割合が、県平均に比べてかなり高い。 ●家庭学習時間(1時間以上)の割合は県平均に比べて低いが、昨年度より差は縮まり、全くないという児童もいない。 ●家の人や先生へのあいさつをしている児童の割合は低い。(県) ●話し合い活動を通じて、「話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを伝えていたか」「自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」を問う項目に対して、否定的な児童が多い。(全国)</p>

成果	課題
<p>○毎週朝学習の時間に「読解問題ドリル」に取り組んできた5年生は、文章問題に慣れ、読解力が向上している。 ○「めあて・話し合い活動・発表・振り返り」における授業改善を行った結果、授業者と児童との意識の差がなくなりつつある。</p>	<p>●3・4年生は、読解力の問題を苦手としている。 ●国語・算数ともに活用型の問題を苦手としている。 ●条件に合わせて書く記述式の問題を苦手としている。 ●話し合い活動をしていると感じている児童は多いが、それを通した学び合いをしていると感じている児童は少ない。</p>

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
条件付きで書く力を付ける	12月	県平均の正答率に達する。	・「まとも」や「ふりかえり」を書くときに、キーワード(児童自身が見つけられるように)や字数の条件を提示して書く。 ・まともカードを利用する。 ・国語・算数・理科の学習プリントを解く。 ・週末の宿題に到達度テスト・問題データベースの活用課題を出す。 ・低学年は、朝学習で「やまぐちっ子プリント」に取り組む。 ・国語・算数・理科の学習プリントを解く。 ・自主学習を充実させる。「ページ獲得リレー」や「校長メッセージ」で意欲付けをする。また、済んだノートは掲示し、参考にさせる。 ・低学年から取り組ませる(実態に応じて)。3年生以上は、毎日取り組むようにする。 ・国語だけでなく、社会・理科の音読も取り入れる。	県平均には到達できなかったが、6年生は県より正答率は上がった。毎日の授業で書くことを意識させるとともに、条件に合わせて書くことを3学期も続けていく。	C			
長文問題や活用的な問題を克服する	12月	県平均の正答率に達する。	・国語・算数・理科の学習プリントを解く。 ・週末の宿題に到達度テスト・問題データベースの活用課題を出す。 ・低学年は、朝学習で「やまぐちっ子プリント」に取り組む。 ・国語・算数・理科の学習プリントを解く。 ・自主学習を充実させる。「ページ獲得リレー」や「校長メッセージ」で意欲付けをする。また、済んだノートは掲示し、参考にさせる。 ・低学年から取り組ませる(実態に応じて)。3年生以上は、毎日取り組むようにする。 ・国語だけでなく、社会・理科の音読も取り入れる。	県平均に到達できなかった問題もあったが、どの学年も県より正答率は上がった。特に活用課題に毎日取り組ませた4年の正答率は高かった。3学期は他学年も毎日の取り組みにしたい。	B			
家庭学習の定着と充実	12月	アンケートを実施する。肯定的な回答が80%に達する。	・国語・算数・理科の学習プリントを解く。 ・自主学習を充実させる。「ページ獲得リレー」や「校長メッセージ」で意欲付けをする。また、済んだノートは掲示し、参考にさせる。 ・低学年から取り組ませる(実態に応じて)。3年生以上は、毎日取り組むようにする。 ・国語だけでなく、社会・理科の音読も取り入れる。	これまで3年生以上の取り組みだった自主学習が低学年にも広がった。自分で勉強する内容を決めることもできている児童が多い。しかし、自主学習が好きだという児童は高学年になるほど低くなっている。3学期は意欲面の向上を強化したい。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」  
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>・中学校ブロックで期間を合わせて、メディアコントロールチャレンジに取り組む。 ・中学校ブロックで、「家庭学習の100%提出」チャーム同時スタート・チャーム同時終了「授業の中に学び合い」を重点として取り組む。 ・小中間による授業公開・教科研修・情報交換を行う。</p>	<p>・「家庭学習のすすめ」や「自主学習の手引き」を家庭に配付し、家庭での学習時間の十分な確保を目指す。 ・音読の宿題の積極的な協力を呼びかけ、児童らの学習内容について意識してもらう。 ・メディアコントロールチャレンジで、スマホ・動画・テレビ・ゲーム等の視聴時間削減を呼びかける。</p>